

日本株ファンド流出が続く中、2017年10月にNISA
で投資されたのは、グローバル株・債ファンド、インド
株ファンド、アセットアロケーション・ファンド!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

つみたて NISA の対象商品は投資信託だけで 100 本以上あり何に投資すべきか悩む

2018年1月から投資開始となる「つみたてNISA(少額投資非課税制度)」は、2017年10月2日から口座開設の受付開始となった。つみたてNISAの対象商品は投資信託だけで100本以上あり(後述※1参照)何に投資すべきか悩む所、現行の(一般)NISAでどのような投資が行われたのかを見る。

一般NISAの投資家を既存投資家と投資未経験者(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※2参照)で代替する。投信を見るのは、NISA買付額の6割が投信となっているからである(*NISA開始の2014年1月から2017年6月までの買付総額は11兆1880億円で、うち、投信60.4%、上場株式37.1%、ETF1.6%、REIT1.0%~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

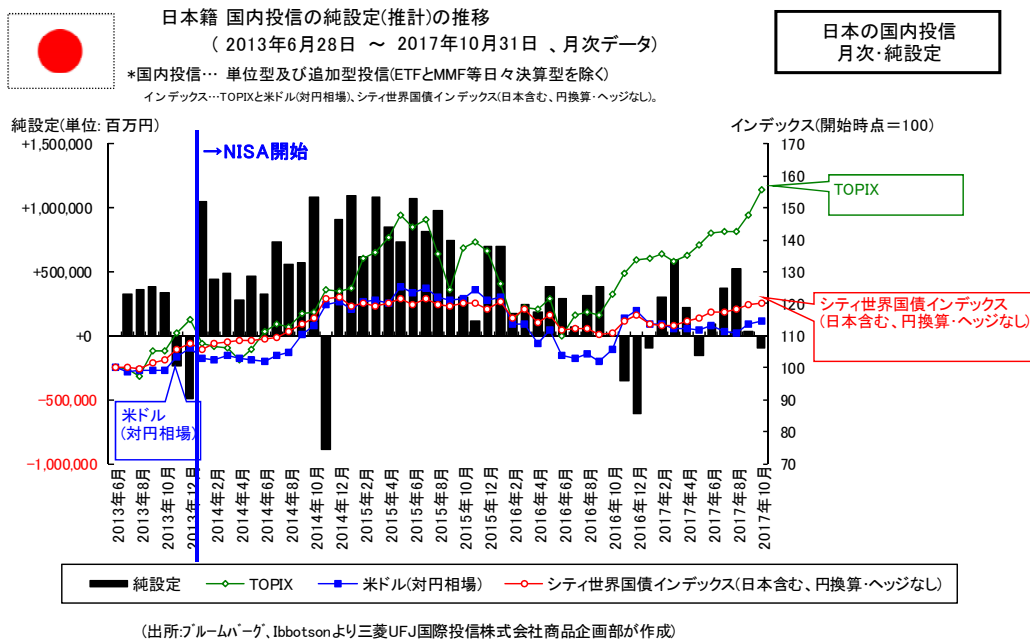


※1: つみたてNISAの対象商品…つみたてNISAで投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016年11月末時点で、要件に該当する投資信託は約50本と、公募投信(約5000本)のわずか1%だった。だが、2017年7月末には120本に増加(事前相談数)。正式な届出日2017年10月2日時点で公募投信103本、最新10月13日時点では公募投信114本である。以上、個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁HP参照(URLは後述[参考ホームページ]②参照)。また、2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」、2017年9月11日付日本版ISAの道その195「『つみたてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」も参照の事(URLは後述[参考ホームページ]②参照)。

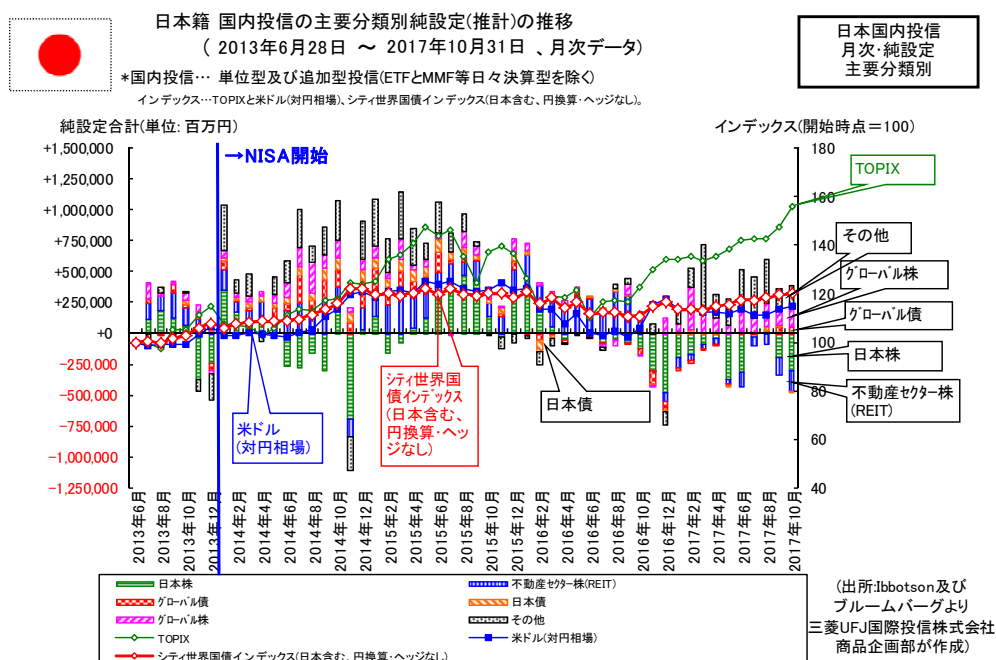
2017年10月にNISA既存投資家はグローバル株・債やインド株が人気

まずNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)は2017年10月に-906億円と、前月9月の+318億円から一転、5カ月ぶりの資金純流出となった。この2017年10月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。

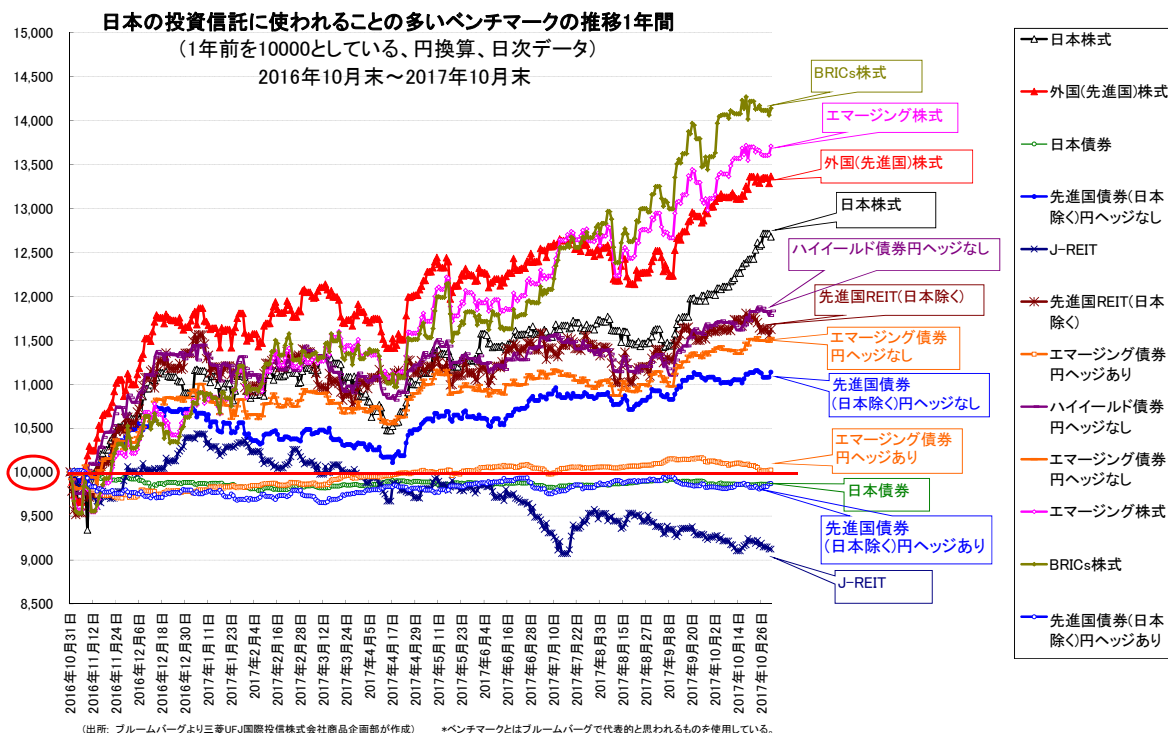
10月に最大の純流出は日本株、次いで、不動産セクター株(REIT)だった。日本株は2015年に年間2.2兆円の資金純流入入ったのが、2016年7月以降、反転し、2016年は年間4260億円の純流出となった。2017年も純流出傾向が継続中で、10月は-2931億円と、前月9月(-1945億円)から加速、年初来では1.6兆円の純流出となっている。日経平均株価は2017年10月30日に2万2011.67円と1996年7月5日以来約21年4カ月ぶりの高値で、投信の基準価額上昇による利益確定が進んだ事が大きい。



投信全体が5カ月ぶりの純流出となる中、**2017年10月に最も純設定の大きかったのはグローバル株、次いで、グローバル債、インド株、エマージング債、アセットアロケーション柔軟型**だった(下記グラフ参照 *主要分類…モーニングスターによる分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。インド株、エマージング債、アセットアロケーション型は「その他」に含まれる)。**純設定が最も大きかったグローバル株は6月から5カ月連続1位で、10月に+1650億円と、前月(+1173億円)を上回り11カ月連続の純流入だった。**既に2017年は10月までで+1.5兆円と昨年2017年(+3042億円)の約5倍の純流入となっている。グローバル株について、2番目に純設定が大きかったグローバル債は10月に+760億円と、2015年12月以来2年10カ月ぶりの大ききで、5カ月連続の純流入。3番目に大きかったインド株は10月に+471億円と、前月(+359億円)を上回り、昨年2016年6月以降、(2017年2月の純流出を除き)好調な純流入が続いている。

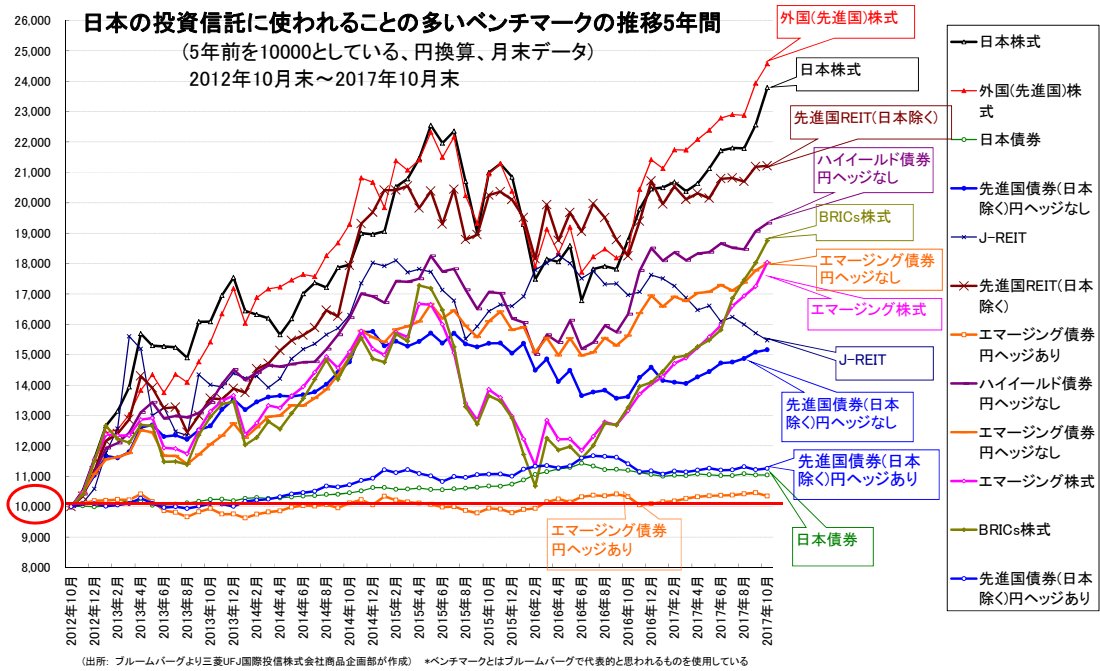


日本の投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、BRICs 株式、エマージング株式、先進国株式、日本株式、ハイイールド債円ヘッジなし、先進国 REIT、エマージング債となっている(*1 年前を 10000、円換算、日次データ)。

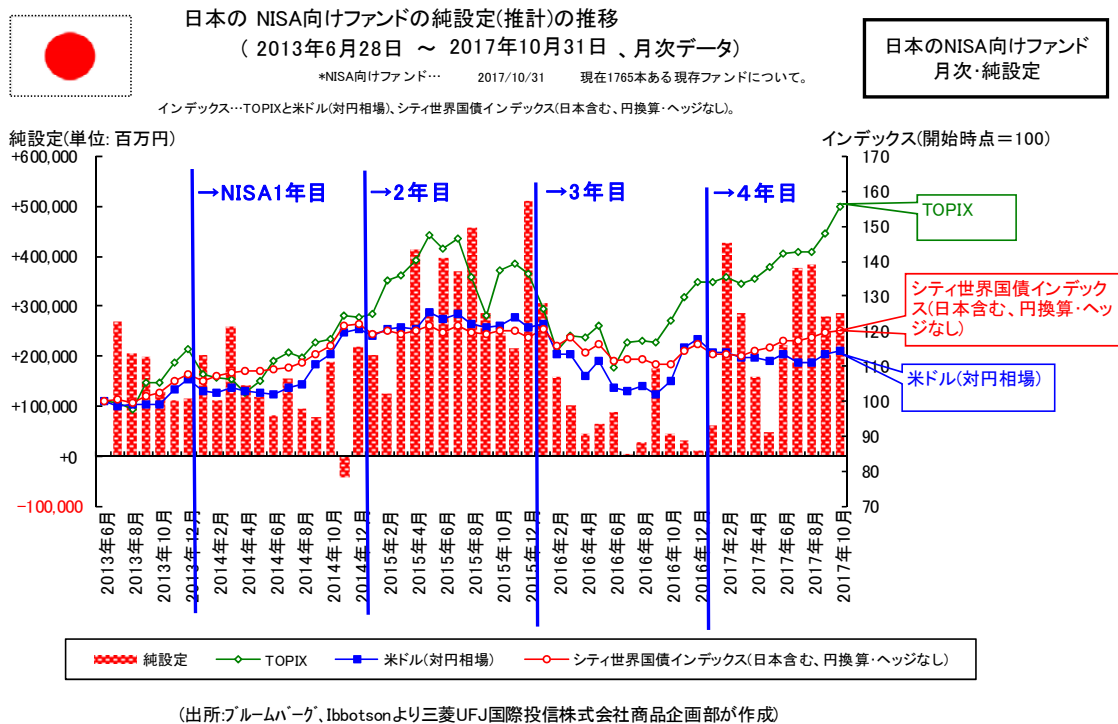


前月同様、1年のパフォーマンスの最も好い BRICs およびエマージング株式は、2017年4月末からの半年でも下記グラフのベンチマークで最も好いパフォーマンスだったが、3年や5年では上から5番目および6番目となり、先進国株式を下回っていた。新興国投資については「先進国ではリターンが低いことや、新興国が力強い経済成長を遂げていることで、多くの新興国資産に対する需要が増加している。500超の世界の大手銀行やヘッジファンドなどが加盟する業界団体の国際金融協会(IIF)によると、非居住者からの新興国への資金流入額が今年度は1兆1000億ドル、来年度は1兆2000億ドルに増える見込みだ。リスクはある。地政学的緊張が高まる恐れがあるほか、先進国の中央銀行が予想を上回るペースで金融引き締め動くかもしれない。またドル高が進行したり、トランプ米大統領が保護主義政策を継続したりしたら、投資家は新興国に対する興味を失う可能性もある。…(略)…。新興国の資金流出入はここ数年、大幅な流出超から小幅な流入超に転じている。その主因は新興国が高い経済成長を遂げていることだ。国際通貨基金(IMF)は、新興国全体の経済成長率は今年4.5%と、昨年の4.1%から上昇し、先進国の2倍以上になると予想している。」(2017年10月4日付WSJ~URLは後述[参考ホームページ]③)と報じられている。2017年11月1日付日本経済新聞はモーニングスターアナリストのコメントとして、「新興国の投資商品は振幅が大きいので、下がった場面で多く買う積み立て方式も有効な選択肢。」とも言われている(URLは後述[参考ホームページ]③)。

次頁グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、日本株式、先進国 REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、BRICs 株式、エマージング株式となっている(*5 年前を 10000、円換算、月末データ)。5年では下記グラフのベンチマークで最も好い先進国株式のパフォーマンスは、3年では日本株式に次いで2番目、1年ではエマージング株式や BRICs 株式に次いで3番目、2017年10月の1カ月や2017年4月末からの半年では4番目に好かった。こうした安定的なパフォーマンスの好さがグローバル株への人気につながっている様に見える。



2017年10月にNISA新規投資家はグローバル株・債やアセットアロケーションが人気
次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見る。**既存投資家の動向を示す投信全体では4カ月連続の純流入となったが、NISA向けファンドの純設定は、最新2017年10月に+2856億円と、前月とほぼ水準で2014年12月以降2年11カ月連続の純流入である。**

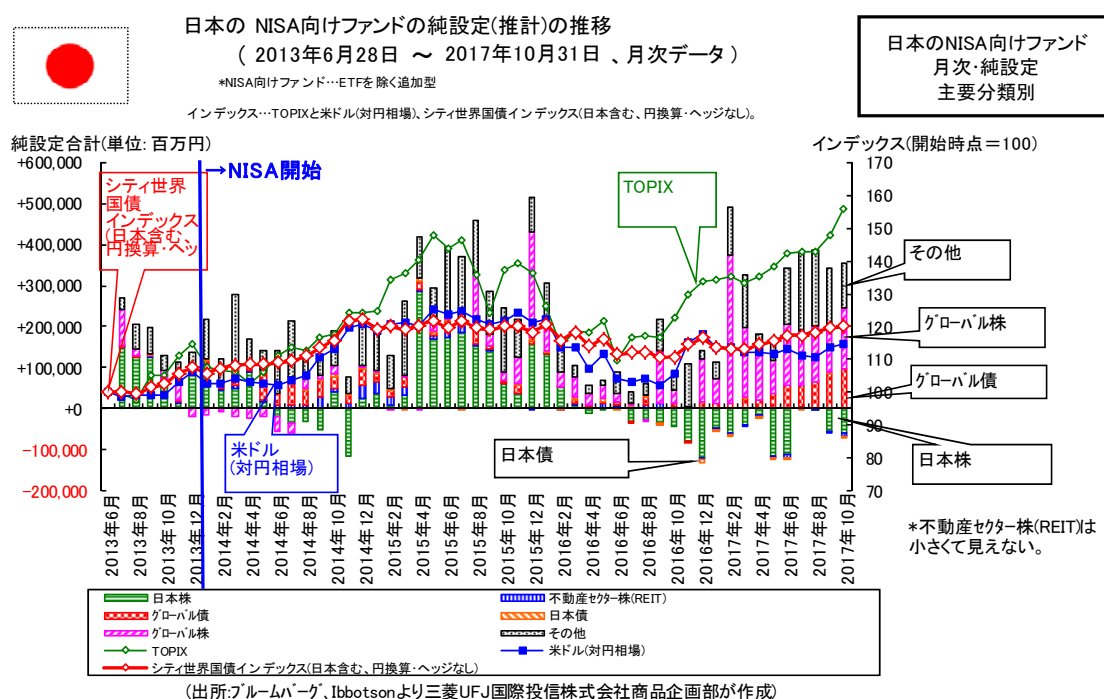


※2: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ]④)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2017年10月31日時点で1765本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、**2017年10月の純設定1位はグローバル株(9月は3位、8月まで7カ月連続1位)、2位はグローバル債(9月も2位)、3位はアセットアロケーション柔軟型(9月1位)、4位はエマージング株(9月4位)、5位はその他債券(9月8位)だった**(次頁グラフ参照。アセットアロケーション型とエマージング株、その他債券は「その他」に含まれる)。

2017年10月は投信全体と同様、NISA 向けファンドでもグローバル株が純設定最大だった。グローバル株は2016年9月から14カ月連続の純流入で10月の純設定が+1463億円と、6月以来の大きさである。2番目に純設定の大きかったのは、グローバル債で、NISA 導入以降(2016年7月を除き)純流入が継続しているが、2017年に入り、緩やかに加速している(10月+966億円←9月+827億円←8月+644億円←7月+538億円)。3番目に純設定の大きかったアセットアロケーション柔軟型はNISA 導入開始以降4年10カ月連続純流入も、鈍化傾向だ(10月+628億円←9月+917億円←8月+1023億円←7月+1159億円)。

一方、投信全体では10月に3000億円近い資金純流出となった日本株は、NISA 向けファンドでも2017年10月の純設定が-597億円と、前月に続きNISA 向けファンドで最大の純流出となっている。



以上、一般 NISA、ジュニア NISA、そして、来年から投資の始まる「つみたて NISA」を検討する人の参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

- ①2017年10月6日付金融庁「NISA・ジュニア NISA 口座の開設・利用状況調査」(平成 29 年 6 月末時点)…
「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20171006-1/01.pdf>」、
- ②金融庁「つみたて NISA 対象商品届出一覧」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170614-2.html>」、
2017年4月24日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…
「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、
2017年9月11日付日本版 ISA の道 その 195「『つみたて NISA 対象(仮確定)商品』は 114 本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行 NISA で 8 月に投資された先は?」…
「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170911.pdf」、
- ③2017年10月4日付 WSJ「新興国投資、リスクがあっても資金流入が続く理由とは」…
「<http://jp.wsj.com/articles/SB12094166559930614459204583431914200624172>」、2017年11月1日付日本経済新聞夕刊「新興国投資の勘所(下)金融資産 多くても 15%」…「<https://www.nikkei.com/my/#/article/DGKKZ022970190R01C17A1NZKP00/>」、
- ④2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。